

日産財団ニュースレター (第57号)

2020年2月発行

◆ 2018年度助成校・団体の活動紹介

2019年11月-2020年1月に訪問した学校・団体の実践を紹介します。

神奈川県 三浦市立名向小学校



3年生理科「太陽の光を調べよう」の授業。鏡を使って太陽光を集める実験時に記載したワークシートのPDFを、タブレットを使って互いに確認し合いながら、物の明るさや暖かさの違いについて考察している。

福島県 相馬市立桜丘小学校



「大地の作り」を単元に、南相馬市鹿島区から採集された中世代ジェラ紀の岩石を教材として活用し、児童自ら観察し、その当時の環境はどうであったのかを自分のノートにまとめ、その後グループごとの発表を経て、学級全体で話し合い、最終的に自らの考え方を深めさせようとする趣旨の実践が行われた。

神奈川県 横浜市小学校理科研究会



横浜市内の計8カ所の学校で、理科研究会の授業と研究協議会が実施された。部会は、3～6年の各学年の部会と、物理部会・化学部会・生物部会・地学部会がある。写真は、物理部会と生物部会の授業の様子。

神奈川県 清川村立緑小学校



5年生理科「電磁石の性質」の応用学習の様子。「最強の電磁石を作ろう」をめあてに、多くの釘を引き付けられるよう、コイルの巻き方・鉄しんの太さ・エナメル線の太さを変え、強い電磁石を作成している。

福島県 只見町立只見中学校



ウニの授精の瞬間を「顕微鏡 + iPad」でライブ観察、ライブグループ討議、画像データでじっくりスケッチ。受精卵を今後1年かけて育て、来年の修学旅行で放流予定という、海のない山の中でグローバルな視点を育てていく壮大な理科 / ESD総合教育。

神奈川県 海老名市立柏ヶ谷小学校



『海老名市ひびきあう教育研究発表会』での写真左から5年生・4年生・1年生の授業の様子。「ともに学びをたのしむ授業」を研究テーマに、ともに学ぶ意義を実感させる授業実践が公開された。写真右は、授業後のグループ協議の場面。各学年ともに、活発な意見が飛び交った。

神奈川県 横浜市立井土ヶ谷小学校



令和元年度授業研究会の様子。研究テーマは「つながりを生かして学びを深める子ども」。350名を超える参加者が生活科・理科の授業を見学し、その後の協議会では熱心な議論が行われた。

神奈川県 愛川町立中津第二小学校



公開授業で行われた6年生「宇宙エレベーター」の授業の様子。この時間のミッションは1つでも多くのピンポン玉を運ぶこと。チーム分かれてプログラミングを組み直したり、トライ＆エラーを重ねながら、なぜダメだったのか、どこを修正すべきなのかなど、子どもたちが論理的思考を働かせていた。